

2025 年度第 2 回 総会 議事録

2025 年 11 月 22 日（土）

早稲田大学

第 149 回早稲田大会の状況報告 〈大会実行委員長〉

- ・申込登録者数 600 超 参加者数約 550

前回議事録について 〈理事長・藤森理事〉

- ・前回総会で、総会議事録を作成・公開（学会 HP 上）することが承認された。
- ・前回総会から議事録を作成している。今回も記録される。

【審議事項】（議長：守田前大会実行委員長）

1. 今後の学会開催について 〈理事長・山元理事〉

- ・2025 年秋 第 149 回 早稲田大会（早稲田大学） 11 月 22 日(土)・23 日(日)
- ・2026 年春 第 150 回 新大阪吹田大会（大和やまと大学） 5 月 30 日(土)・31 日(日)
- ・2026 年秋 第 151 回 鳥取大会（鳥取大学） 10 月 24 日(土)・25 日(日)
- ・2027 年春 第 152 回 [名称未定] 大会（玉川大学） 5 月 29 日(土)・30 日(日)

●原案通り承認された。

2. 優秀論文賞受賞候補者について 〈間瀬理事〉

- ・選考対象:『国語科教育』第 96 集・第 97 集掲載論文
- ・選考委員長:奥泉香氏 副委員長:河野順子氏
- ・選考結果:該当無し 推薦された候補者多数で散票。突出した票を集めた論文が無かった。
∴過去受賞者 12 名を対象外とすると票が割れ選考しづらい状況あり。

※優秀論文賞選考規定における「該当無し」の扱いについて

参考)「全国大学国語教育学会優秀論文賞規程」第 4 条第 3 項(令和 6 年 5 月 26 日修正)

(3)(委員長)委員長は候補論文を決定し、理事長に推薦する。なお、候補論文が決定に至らない場合は推薦を行わず、その年度の表彰は行わない。

○《意見》「票差がわずかなら、受賞者を複数選ぶこともできるはず。そうしないのなら、説明は『飛び抜けて素晴らしい論文がなかった』とするのが妥当ではなかろうか。」

●間瀬理事回答「規定第 4 条第 3 項に則り『該当なし』という項を設けたところそれへの投票が多かったこともある。この傾向がもし今後も続いたら、機会損失にもあたるため、投票方法を工夫するなどの検討もしたい。」

●原案通り承認された。

3. 第 100 集からの諸規定の修正について 〈間瀬理事〉

【改定箇所】

◆ 「国語科教育」投稿要領(案)(令和 7 年 11 月 22 日修正)

6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として 400 字詰
原稿用紙ほぼ 40 枚(投稿フォーマットで 10 ページ分)以内とし、1 ページあたりの字
数・行数を次のようにする。

(2) 縦書きの場合

(中略)

* 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は 8 割
以上、かつ文字の大きさは 8 ポイント以上とする。

◆ 「国語科教育」編集委員会規定(案) (令和 7 年 11 月 21 日修正)

〔編集委員会の構成〕

1 編集委員会は、会員の中から理事会の選出する 9 名の委員によって構成する。

・改定案は前回三重大会で提案していたが、異論は出でていない。

・第 100 週から新体制で編集を行いたい。

●原案通り承認された。

4. 公開講座の移管（研究部門から広報部門へ）について 〈幸田理事〉

- ・研究部門の業務見直しと公開講座の趣旨に鑑み、企画・運営を広報部門に移管したい。
- ・2026 年秋大会分から試行（研究部門と広報部門の共同企画とする）
- ・2027 年春大会分より、広報部門が独立運営。このタイミングで継続委員の交代についても検討する。
- ・公開講座の実施時期も再検討する。また広報部門委員として若手・中堅を登用する。
- ・早稲田大会理事会・総会にて頭出し、新大阪吹田大会理事会・総会にて詳細を提案。

●原案通り承認された。

5. 役員選挙規定の改定について 〈細川理事〉

【改定案】

6 条 理事のうち、全国区理事の選出は次の方法による。

- 1 選出は投票によるものとし、5 名連記とする。（6 名以上は無効）
- 2 投票は、無記名とする。原則として電子的手段（オンライン投票等）による投票とし、理事会が定める方式により実施するものとする。
- 3 書面投票の場合は、あらかじめ送付する投票用紙を用いなければならない。また指定の期日までの消印があり、開票日までに事務局に到達したものをもって有効とする。

8 条 理事長および常任理事の選出は、次の方法による。

- 1 投票は理事長については単記とし、常任理事については、5 名連記とする。

- 2 投票は、無記名とする。原則として電子的手段（オンライン投票等）による投票とし、理事会が定める方式により実施するものとする。
 - 3 書面投票の場合は、あらかじめ送付する投票用紙を用いなければならない。また指定の期日までの消印があり、開票日までに事務局に到達したものをもって有効とする。
 - ・11月25日から始まるオンラインでの役員選挙にあたり、6条と8条を改め、原則はオンラインだが利用の難しい方には紙での投票を認める案で常任理事会の承認を得た。
- 原案通り承認された。

【報告事項】

1. 各部門報告（担当常任理事）

(1) 編集部門（間瀬理事）

- ・『国語科教育』第99集編集状況

審査結果 投稿総数32本、うち規定違反(著者名記入)1本

※31本を審査(31本の種別:研究論文17 実践論文12 資料2)

採択0

修正採択3(うち研究論文3)

修正再審査9(うち研究論文6、実践論文3)

※臨時審査委員による追加の審査1本を含む(研究論文1)

不採択18(うち研究論文8、実践論文8、資料2)

審査の過程で審査対象外としたもの1(うち実践論文1)

- ・次集の編集委員長・副編集委員長の選出

編集委員長:守田庸一氏(三重大学) 副編集委員長:長田友紀氏(筑波大学)

- ・書評対象図書(博士論文かそれに準じるものとの規定に基づき推薦のあったもの)

◆中西一弘著『フランスのリセー(高校)における言葉の教育 一ボードレールに重点をおいて』 溪水社、2025年7月10日

執筆候補者 山元隆春氏(広島大学)

◆樋口敦士著『定番漢詩教材考』文学通信、2025年6月27日

執筆候補者 山田和大氏(尾道市立大学)

◆安直哉著『『小学国語読本』教材研究』 溪水社、2025年9月20日

執筆候補者 中嶋真弓氏(愛知淑徳大学)

- ・論文の非公開の選択可能性について

第148回総会での問題提起(特別支援教育、個人情報、人権に関わる研究も含めすべて公開の原則では問題があるのではないか)に対して

- ・オープンアクセスの原則があり『国語科教育』掲載論文は公開が相応しい。
- ・一方『要旨集』は投稿のまま全て掲載され、学会として審査していない。
- ・もう少し時間をかけ検討していきたい。

(2) 庶務部門（細川理事）

・理事の改選について

選挙管理委員会は、細川理事・西田太郎会員（玉川大学）・後藤志緒莉会員（学習院大学）の3名で構成する。

11月25日より役員選挙開始に伴いメールか郵便を送る。リンクから投票されたい。

(3) 研究部門（幸田理事）

1. 第149回早稲田大会関連

(1) 公開講座 11月8日(土)14:30～17:30(Zoomミーティング)実施済み

テーマ:研究にもとづく授業づくり3—中学校・高等学校における読書指導を考える
司会・進行:森田香緒里氏(文教大学)

話題提供者:中川甲斐氏(神奈川大学附属中・高等学校)／稻井達也氏(大正大学)／飯田
一史氏(ライター)／間瀬茂夫氏(広島大学)

(2) 課題研究発表 2025年11月23日(日)9:30～12:00 会場:14号館2階201教室

大テーマ:国語科教育研究の存立基盤

小テーマ:〈環境〉としてのテクノロジー

コーディネーター:砂川誠司氏(愛知教育大学)／登壇者:笠原諭氏(西武学園文理中学・高等学校)／豊福晋平氏(国際大学 GLOCOM)／川添愛氏(言語学者・作家)

2. 第150回新大阪吹田大会関連

(1) 公開講座 2026年5月23日(土)14:00～17:00((Zoomミーティング)予定)

テーマ:研究に基づく授業づくり4—漢文教育のこれまでとこれからー
司会・進行:甲斐伊織氏(学習院中等科)

話題提供者:薄井俊二氏(埼玉大学)／富安慎吾氏(島根大学)／樋口敦士氏(狭山ヶ丘高等
学校)

※現在、初回の打ち合わせ終了

(2) 課題研究発表 2026年5月31日(日)9:30～12:00 会場:大和大学

大テーマ:国語科教育研究の存立基盤

小テーマ:〈枠組み〉としての教科

コーディネーター:初谷和行氏(武蔵野大学)

登壇者:上谷順三郎氏(鹿児島大学)／中村純子氏(東京学芸大学教職大学院)／森篤嗣
氏(武庫川女子大学)／酒井英樹氏(信州大学)

※11月25日(火)に初回打ち合わせ予定。

(4) 出版部門（住田理事・奥泉理事）

・公開講座ブックレットの編集状況（担当は15まで住田理事、18まで奥泉理事）

17 (145 信州・146 鹿児島) 東洋館に入稿済 今年中の納品を目指し作業中

18 (147 越谷・148 三重) 編集中

- ・課題研究報告書の編集状況（担当は 1 本目まで住田理事、2・3 本目まで奥泉理事）

「国語教育学を見つめ直し展望する」 (140OL・141 世田谷・142 学芸大) 入稿済

「国語教育学研究を見通す」 (143 千葉・144 島根・145 信州)) 東洋館に入稿済

「国語科教育研究に求められる新たな『知』」

(146 鹿児島・147 越谷・148 三重) 執筆中

(5) 大会部門 (児玉理事、坂口理事)

- ・鹿児島大会以来、託児所の開設を続けている。

- ・新大阪吹田大会でも開設する。格安ゆえ、事前の締切を守って積極的に利用願いたい。

- ・新大阪吹田大会の会場運営

自由研究 100 本、ラウンドテーブル 7 本（最大規模）2 月 25 日から先着順受付予定
懇親会 300 名可能

会場校企画（※メンバー応諾済） 「理解方略」の学習指導を考える

—“デジタル・ファスト・リーディング”時代の社会参加と文化創造に必要な学習材と指導法—

コーディネーター：守田庸一氏（三重大学）

登壇者：足立幸子氏（新潟大学）／天野知幸氏（京都教育大学）／古賀洋一氏（島根
県立大学）／渡邊久暢（福井県立若狭高等学校）

○《質問》「2 月 25 日の何時から受付開始か？」

●舟橋大会実行委員長回答「ヘルプデスクの国際文献社と相談のうえ決まる。事前の周
知に努め、フェアに行いたい」

(6) 広報部門 (藤森理事)

- ・議事録・研究行動規範 学会 HP に掲載済

(7) 教科教育学コンソーシアム (山元理事)

- ・3 月 8 日（日）第 6 回シンポジウム（広島大学東広島キャンパス）

テーマ：各教科におけるビッグアイディアとは何か

- ・教科教育学研究ハンドブックを研究推進委員中心に作成中、今年度内に刊行の見通し。

山元理事・勝田幹事が委員として執筆。

- ・コンソーシアム研究推進委員会（12 月 26 日 夕方）

山元理事・勝田幹事が出席予定。

2. その他

- ・教職大学院への移行に伴う対応検討ワーキンググループ（理事長）

アンケート報告書をもとに活動案を具体化（会合…12月オンライン、3月対面）

次回の総会[予定] 5月30日(土) 14:10~15:10 大和大学にて

以 上